

## 三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針（素案）説明会 要録

日時、場所	平成30年11月29日（木）19：30～21：15 於：三軒茶屋分庁舎5階 三茶しゃれなあとホール オリオン
出席者	参加者：47名
議事次第	説明会次第 1 挨拶 2 方針（素案）説明 3 質疑応答
<p>1 挨拶</p> <p>2 方針（素案）説明 配布資料、パワーポイントにて以下の内容を説明した。 （1）方針策定の経緯 （2）方針の内容</p> <p>3 質疑応答</p> <p>【質問】 現在駅周辺でコワーキングスペースの開設を検討している。自身の考えと近い方策3で具体的に区はどのような事業を考えているのか。</p> <p>（回答） まちづくりの基本的な方向性として、「暮らす」と「働く」の両立を掲げたが、具体的な事業は、今後検討していく予定である。</p> <p>【質問】 再開発の中で、本庁舎を利便性の高い三軒茶屋に整備できないのか。本庁舎にこだわるのが疑問である。</p> <p>（回答） 本庁舎整備に必要な用地の確保や、整備のタイミングなど様々な検討要素から整備候補地を選定し、検討を重ねた結果、現在の場所で整備をすることが決定している。</p> <p>【質問】 再開発の中で公共施設を整備すべきだ。</p> <p>（回答） 三軒茶屋駅周辺に点在する公共施設に課題があり、そのあり方の検討は今後の課題と認識している。</p> <p>【質問】 三軒茶屋に限って見れば人口減少するように思えない。人口減少のことまで考える必要があるのか。</p> <p>（回答） 今はまさに人口が増加しているが、長期的に見れば必ず人口減少すると区は見ている。だからこそ、今から三軒茶屋の魅力を高める機能など優先順位をつけてまちづくりを進める必</p>	

要がある。

【質問】

方針の内容が、今のよさを残すなど過去の延長線上でおもしろくない。財政上の危機感があるならば、増収を増やすような内容に特化して方針を考えるべきでは。例えば起業の支援など。

(回答)

二子玉川の再開発事業がきっかけで、企業の誘致によるまちの価値の向上など実感し始めた段階である。ご意見を参考にしながら、今後具体的に検討する。

【質問】

方針策定以降のスケジュールを区はどう考えているのか。

(回答)

まちづくり基本方針策定後のスケジュールは具体的なまちづくりを検討する中で定めていきたい。

【質問】

二子玉川のまちづくりはどのようなスケジュールで進めてきたのか。

(回答)

二子玉川のスケジュールを説明(都市計画 H12、事業認可 H17、事業完了 H28)

長期間に渡ってまちづくりが進められてきて、現在の形になっている。三軒茶屋でも長期的なスパンで考える必要があると考えている。

【質問】

方針の以下の点について記載が不足していると感じた。

- ・ 方針策定の背景
- ・ 検討中の市街地再開発事業の状況
- ・ 未整備の都市計画道路(放射 4 号支線 1 号線)

(回答)

ご意見として賜る。

【質問】

まちづくりは 100 年を見据えて計画を作るべきで、10 年程度で短期的にその都度考えるから失敗している事例があることを認識して、ぶれない方針を策定すべき。

(回答)

ご意見として賜る。ただし、誰も経験したことのない高齢化社会など社会情勢の変化が進む中、現時点での方針の最適解を示すことは難しいことはご理解いただきたい。

【質問】

総合支所の設置などの検討を含め、三軒茶屋には防災の拠点が必要と考える。

(回答)

ご意見として賜る。

【質問】

三軒茶屋駅周辺の防災をどう考えているのか。

(回答)

方策 2 で方向性を示している。

【質問】

現在も新たなマンションが建設されるなど、三軒茶屋に限ってみれば、人口減少は考えられないのではないか。

(回答)

全国的には、人口が減少している中、三軒茶屋や世田谷区が人口増加しているのは、暮らす場所として選ばれているため、今後三軒茶屋にも人口減少がないとは言い切れないと考えている。今人口が増えている時からこそ、将来を見据えたまちづくりを検討する必要があると考える。

【質問】

駐車場も必要なのではないか。

(回答)

将来を見据え、三軒茶屋にとって必要な機能を検討していく。

【質問】

現在の1～5工区の再開発の計画は、地元も理解しているが、今回の方針で新しく変えてしまうのか。変えるなら検証が必要ではないか。

(回答)

昭和56年の再開発基本構想から現在の街区でもまちづくりの動きに合わせて変更してきている。今回の方針検討の中で、国道246号線の南側などを含む新たなエリアを追加し、今後具体的なまちづくりを検討していく。

【質問】

三軒茶屋駅周辺バリアフリー基本構想は範囲が半径500mだが、今回の方針は半径300mとなっている。範囲から外れたエリアはどうなるのか。また、相互の関係性をどう考えているのか。

(回答)

バリアフリー基本構想を踏まえてまちづくり基本方針を策定している。方針の範囲は、方針を検討する上で決定したものであり、今後具体的なまちづくりを検討する中で、必要に応じて範囲を考えていく。半径300からはずれたからまちづくりを検討しないわけではない。

【質問】

駅の地下空間の活用や都市基盤の整備には、東急電鉄や国、沿道地権者が一緒に検討できる会議体などを作った上で、まちづくりを進めるべきでは。

(回答)

区としても様々な主体との連携が不可欠と認識している。今後具体的なまちづくりを検討する中で、様々な主体との連携も検討する。

【質問】

過去の市街地再開発事業を進める際に、地権者の合意はどのぐらいで実施したのか。

(回答)

組合設立には法定要件があるが、地権者の合意100%を目指して進めてきた。ただ、条件面でどうしても合わない方など若干名はあったと認識している。

【質問】

方針区域の半径300mの根拠は。

(回答)

商業地域が面的に広がるエリアを拠点のまちづくりの範囲として、一旦定めたものである。

**【質問】**

有識者のメンバーはどのような構成だったのか。

(回答)

座長は国土舘大学の寺内教授。学識経験者を中心に、世田谷区の幹部を含めて、9名で構成。

**【質問】**

区民参加として区民意見募集しかなかったが、今後の区民参加はどう考えているのか。

(回答)

今回の方針では、区民参加として、区民意見募集、関係者団体との意見交換などを実施している。今後の具体的なまちづくりの検討の段階では、区民参加のあり方を検討する。

**【質問】**

方針区域の半径300mからはずれた範囲は、まちづくりに参加できないのか。

(回答)

方針の検討にあたり、拠点のまちづくりを考える上で一旦範囲を設定しており、300mからはずれているからまちづくりを考えないわけではない。

**【配布資料】**

- ・まちづくり基本方針について
- ・まちづくり基本方針(素案)概要版
- ・まちづくり基本方針(素案)別添1(機能イメージ)
- ・まちづくり基本方針(素案)別添2(基盤整備イメージ)